

市立養護老人ホームのあり方について

○2月17日開催「岡山市総合政策審議会保健・福祉部会」の内容

(1) 議題 市立養護老人ホームのあり方について等

(2) 2月17日開催の部会における委員の主な意見等

- ・ 公設公営施設について、将来の方向性を示した方が良いのではないかと。
- ・ 御津町の町立養護老人ホーム玉松園についての記述があるが、今回は市立3園だけを答申するのがよい。
- ・ 会陽の里は施設が大きいので、光熱費に無駄が多い。そのまま民間に委託しても引き受け手が無いのではないかと。
- ・ 指定管理者制度で運営管理することになる会陽の里の事業者の選定は、岡山市の指針を踏まえた上で行ってほしい。
- ・ 今まで市立3園は質の高いところではなく、同じレベルに統一されてきたと思う。これからは、公設公営の施設が、よりよい福祉サービスを行うため努力するときには、それを認め、支援し、しっかりと資金を投入してサービスの質の向上を図っていかねばならないと思う。
- ・ 友楽園は、唯一の市立養護老人ホームとなり、役目は重大である。文言の中に「尊厳」という言葉を入れてほしい。また、筋トレや認知症予防等に対応できるような施設として準備をし、全体のリーダー的な存在になっていくべきである。
- ・ 民間の方がすぐれたもの、民間で十分なものもある。なぜ民営化が必要なのか、市民にわかりやすく広報すべきである。
- ・ 介護保険制度の改正の影響を踏まえるのは難しいと思うが、それを踏まえて改革をしてほしい。特に地域密着型サービスについて、現時点で盛り込むのは難しいかもしれないが、将来的には市がかかわる施設で中心的にやってほしい。そうすることによって、コストの問題について納税者の理解を得られる可能性もある。